

第三話

館にて



原作 Howling

漫画 あさぎり

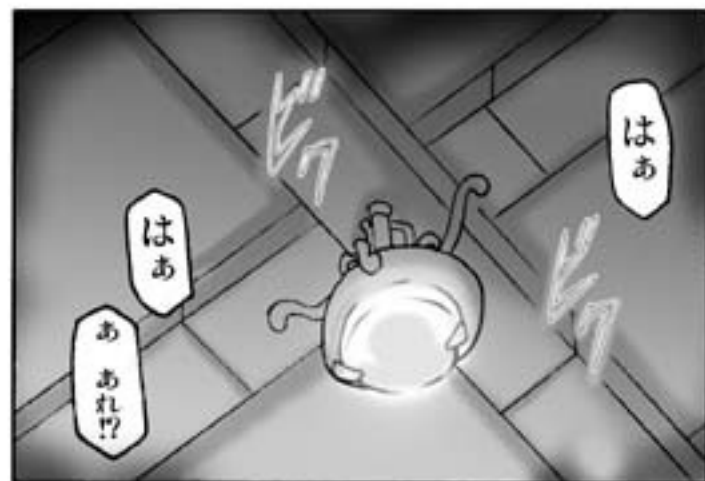


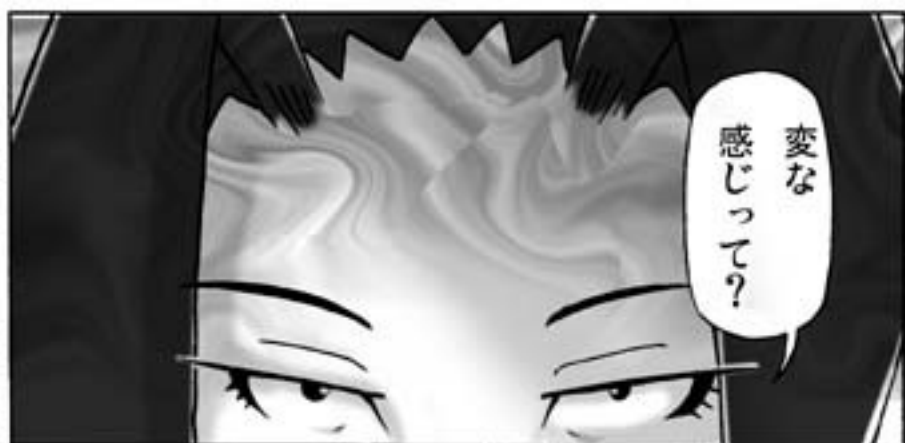














一週間後……

うふふ
いらっしやい

ぎゅっ

（い）

ゴメンね

我慢するの
大変だったでしょ

はい

ほら

ふふ 正直で
よろしい

さ
始めましょ

じゃ
じゃあ…

ぐわ
ぐわ

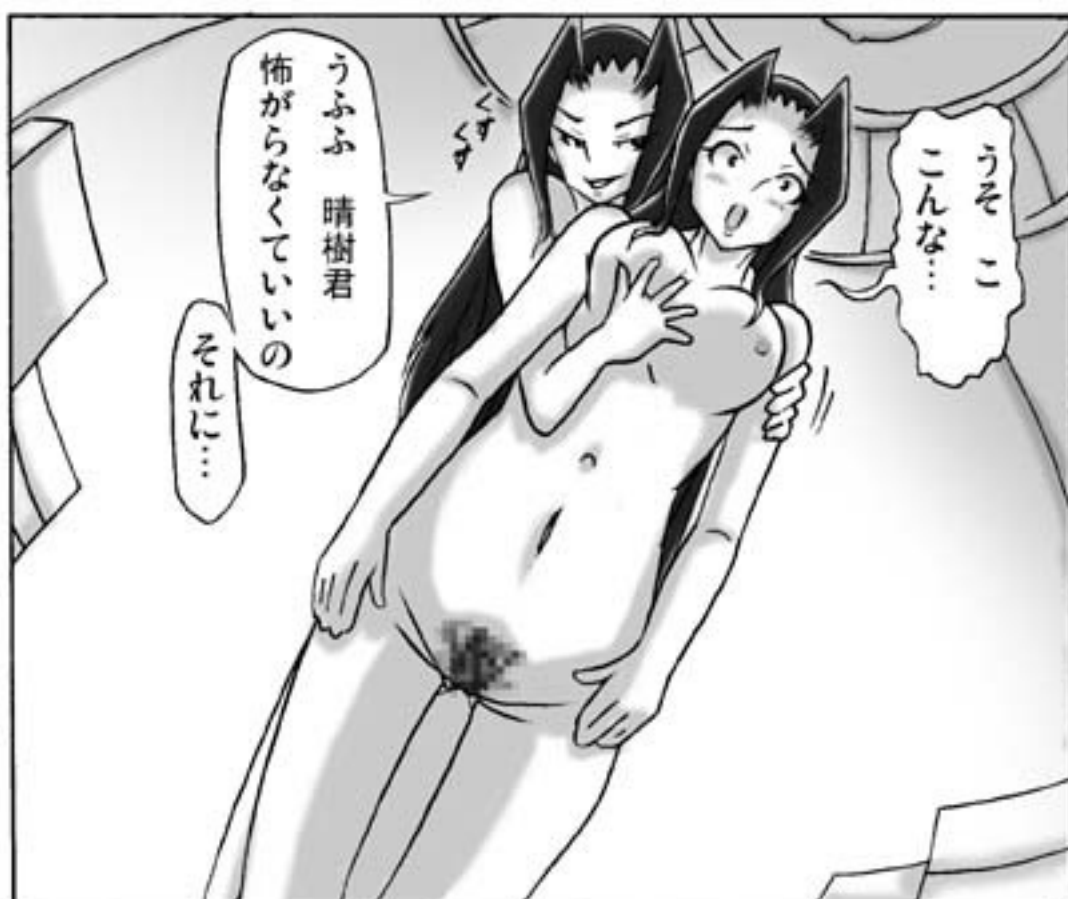
ぎゅ

んっ

ああっ



















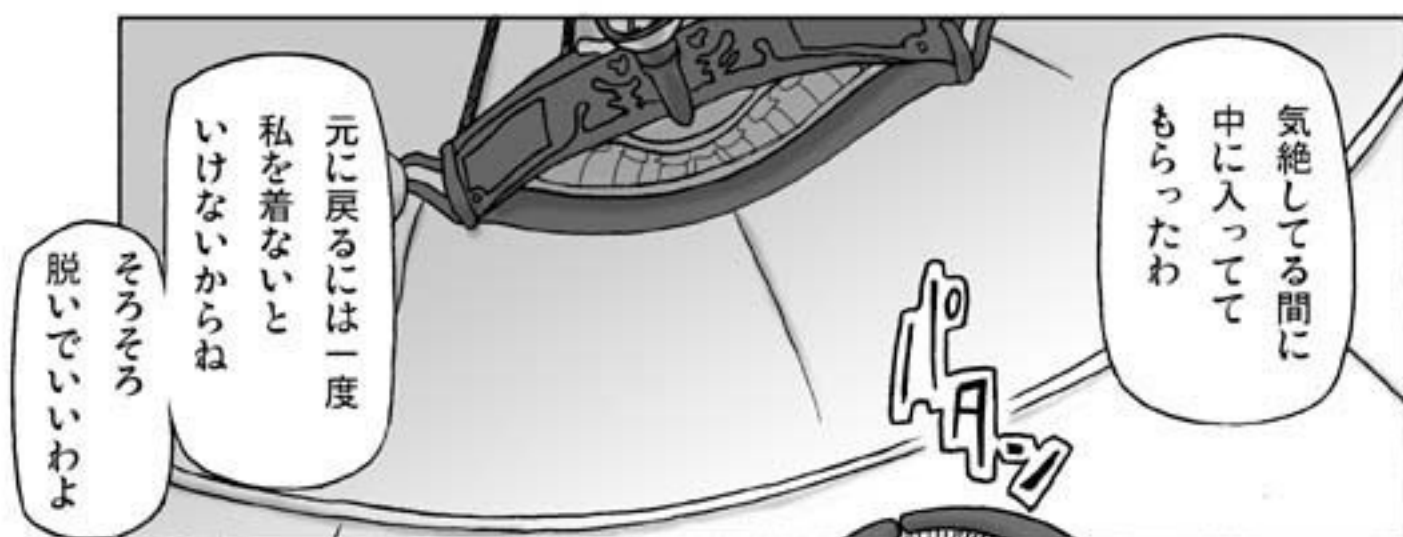


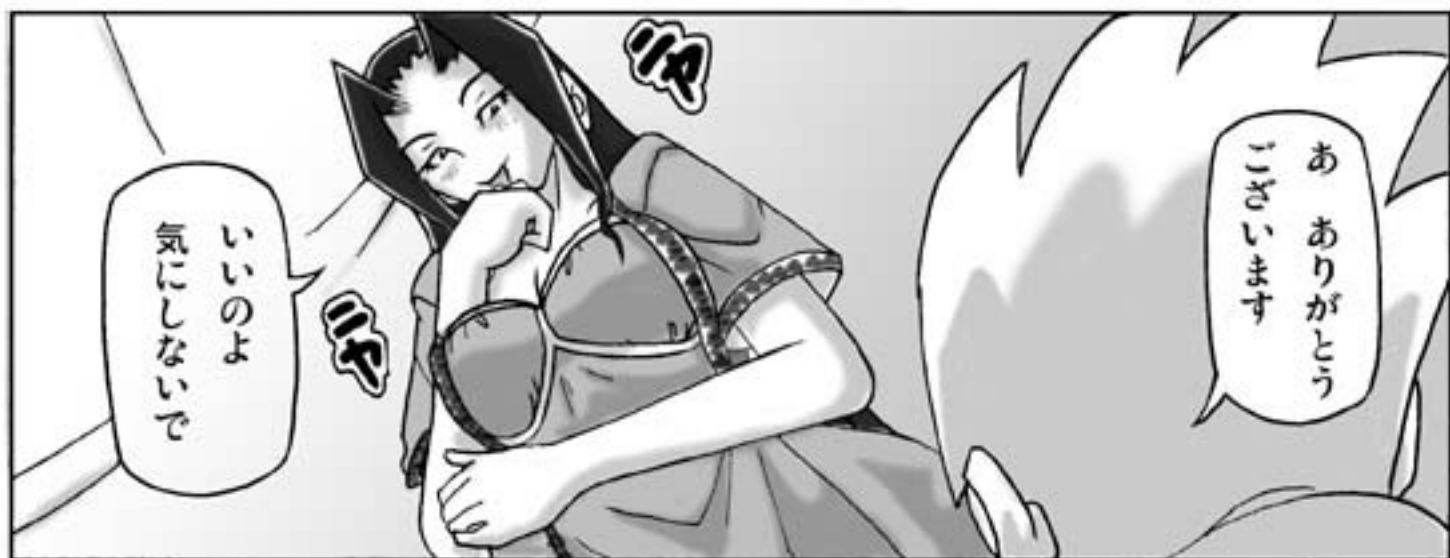


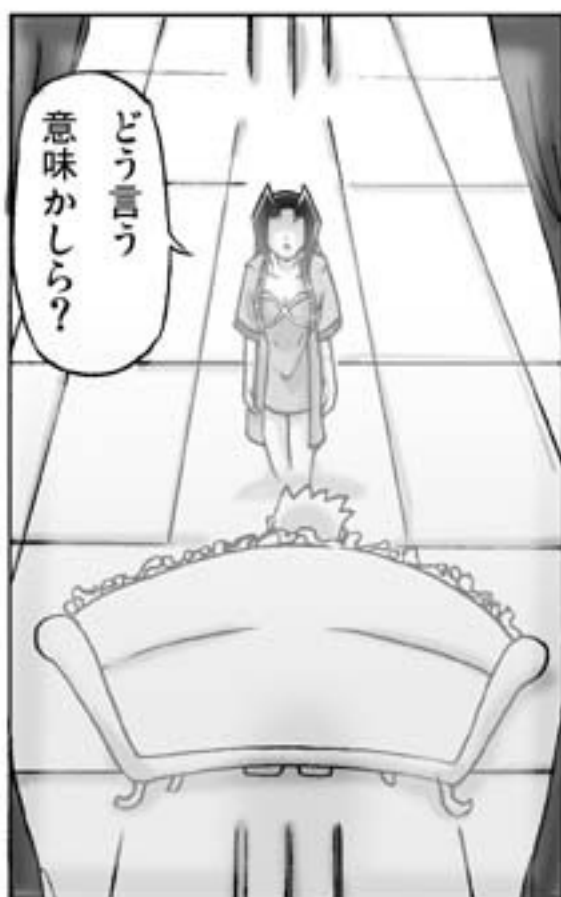
















それから僕が
優子さんでいる
日々が始まった

もい

もい

あの……
優子さん

今は君も

私なんだから
敬語なんて変

お互い
自分自身

だから
遠慮なく
して欲しいな

わかりま……
ううん
わかったわ

ニコ

じゃ 今日も
私同士で
愛し合いましょ

……ええ



館に入り浸って
彼女の姿で情事を
繰り返した



この頃から
自宅に戻る事は
ほとんど無く



そして女の身体が
もたらす快感に
いつしか僕は



人物になった
錯覚に陥っていた



目の前にいる
宮城優子と言う





おかげでやっと
思い出せたわ

私は永遠の若さと
美貌を引き換えに
皮になったんだ

ただ その代償に
館以外では
動けずにいたの

それで今まで
色んな男のコを
招き入れたけど

中身になる様な
相性のコには
ずっと会えなくて

だから君には
本当に感謝してるわ
だって…やっと

ああ やっとこれで
この館から旅立つ事が
出来るんだから…

そして、おめでとう
これでこの館は
全てあなたのモノよ

君にはもう中身ではなく、
私そのものになってもらったわ

始めは戸惑う事も多いと思う
けど心配しなくていいわ

その身体でならいくらでも
生き続けられるから

……。

あの……
優子さん

もう一度
いいですか

言ってる
意味がよく……

だから
望みどおり

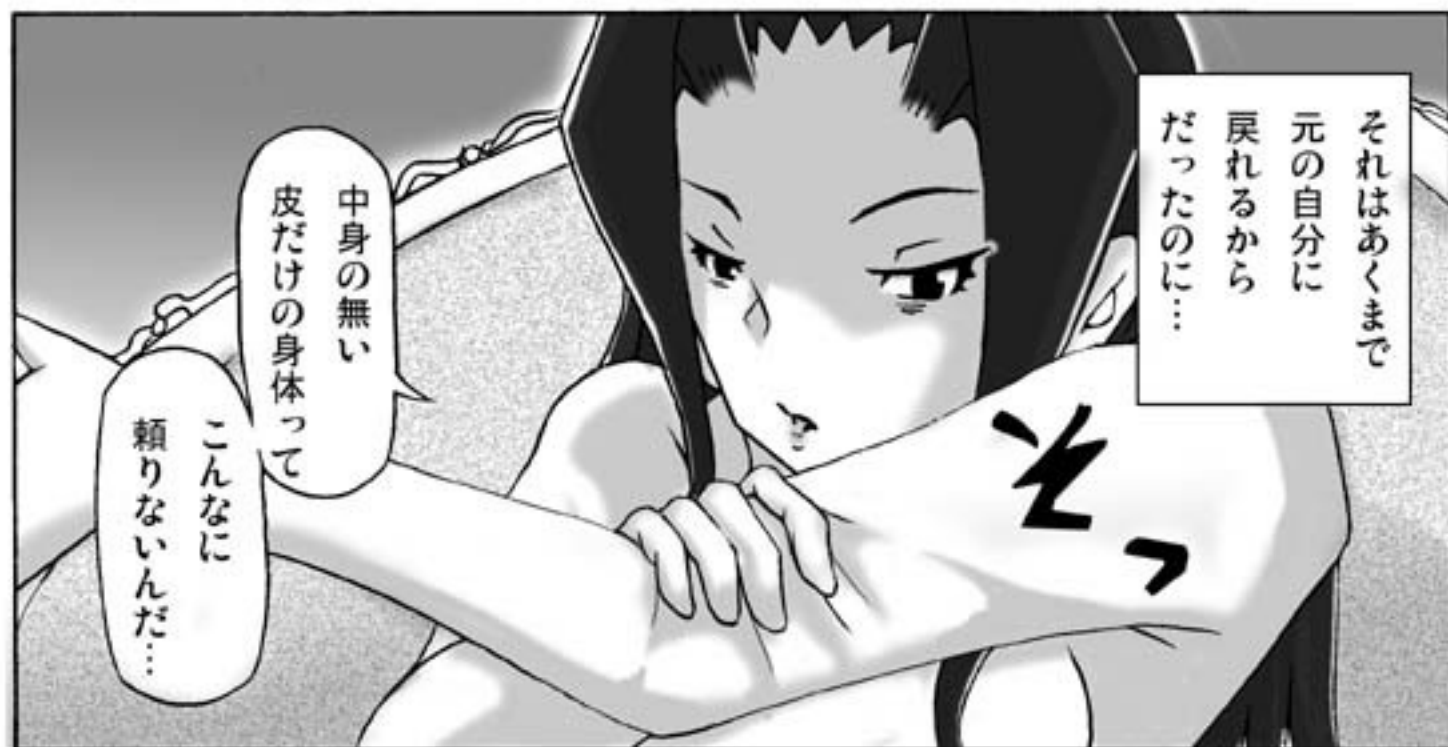
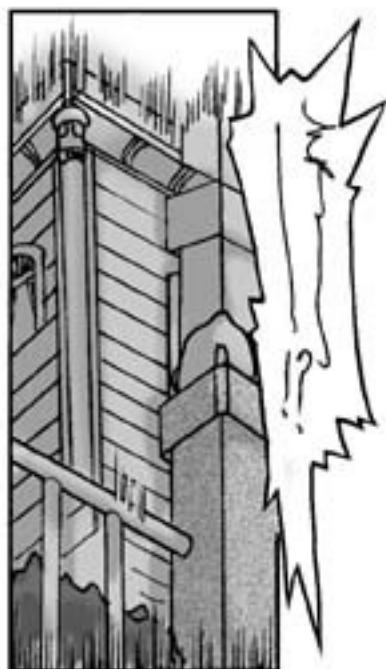
これからは君が
この館の女主人に
なるのよ











優子さんもずっと
こんな気持ちで
過ごしてたのかな

自らの全てを
僕に引き継がせ
消えてしまった

元の彼女が
どこに行って
しまったのかは

今となっては
尋ね様も無い

別に君を食べたりしない
私の全てを差し出したい

言われた言葉に
嘘は無かったけど

まさかこんな事に
なるなんて
思いもしなかったな

数日後…

はあっ

はっ

○再生

ああっ カメラに
見られてるだけで
濡れてきちゃう

はあ…もう
我慢できない

はあ

はああ…ああ
手が止まらない

ああっああっ
ああああ…ん

はあ…っ

んっ…

ん

ズ

……

ん





やっぱ中身が
必要なんだ

あれから僕は
館から出ようと
様々な方法を
試してみたが

今の状態では
どうする事も
不可能で



改めて自分が皮だけの
存在になったと
思い知らされ
たのだった

自分の中に
他人を入れるのは
抵抗あるけど

あの快感は
捨て難いしな

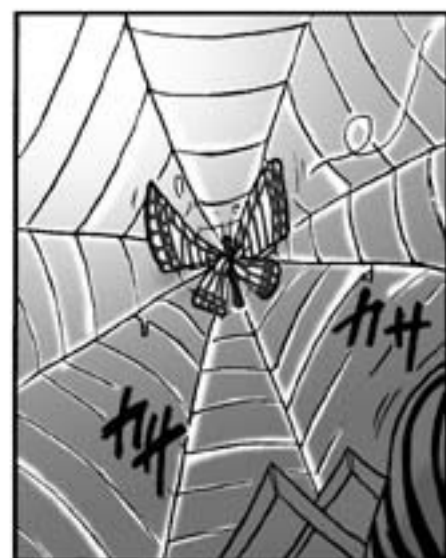


まあ別に
焦る事はない

しばらくは
この女の姿を
楽しむとするか

おっと
誰か来た





若い男は消える

館を支配する
女に魅入られた



昔からここには
そんな噂話があった…

私の名前は
宮城 優子

ねえ キミ
よかったら

中に入って
お茶でもどう？

あしがき

どうもご無沙汰いたしております、あさぎりです。
色々大変なご時勢ですがお加減は如何でしょうか？

まずはこの作品に関してお知らせとお詫びなんぞを。

まことに勝手ながら漫画『館にて。』私の我儘で、
このお話を持って完結とさせていただきました。
原作の漫画化を期待されていた皆様には申し訳ございませんが
これも一つの可能性と言うかアナザーストーリー的な
感じでお楽しみいただけましたら幸いです。

個人的にどうしてもループ的なラストが描きたい衝動に駆られ、
気がつけば原作と離れた形になってしまいましたが、
発表を快諾してくれた Howling さんには感謝です。

そして組ませていただいた経験はとても勉強になりました。
ホントにありがとうございます。

最後にだんだんと執筆ペースが落ちながらも、
年内に作品描き上げる事が出来て内心ほっとしている私を
どうか引き続きよろしくお願い致します（笑

では次回作でまたお会いしましょう。

あさぎり (◡‿◡)



あさぎり
Howling